

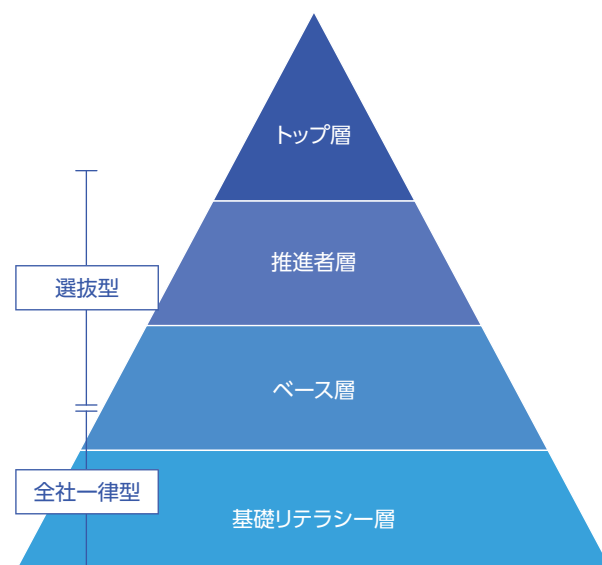
デジタル活用の推進

基本的な考え方

情報システム部門は「テクノロジーの力で従業員に笑顔を、ビジネスに価値を」というミッションを掲げ、従業員が定型業務やサブ的業務に過度な時間を費やすことなく、本来業務に集中し、かつ創造性や専門性を最大限発揮できる環境づくりを進めています。

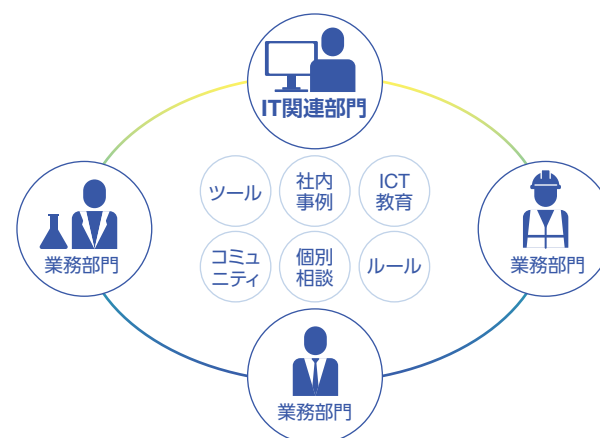
従業員の生産性向上への貢献／DX推進者の育成

社内に存在する情報資産を安全に活用できるデータ基盤・AI基盤を整備し、日常業務に自然な形で組み込むことで、従業員の知的生産活動を支えます。情報保護やアクセス制御も徹底しつつ、2028年度までにオフィスワーク20%削減を目指します。また、あわせて変革を主導するDX推進人材の計画的育成を行うことで、従業員の働きがいの向上と組織全体の改善力強化に貢献していきます。



デジタル活用文化の醸成

DXを企業価値向上につなげるには、これらを一過性のお祭りで終わらず、従業員がデジタルを活用して自律的に業務を変革していく文化として定着させることが重要です。情報システム部門は、伴走型の改善支援活動「WITH活動」を立ち上げ、ICT*1教育、ツール提供、事例共有、部門横断コミュニティ形成などを一体で提供しています。各現場の課題や改善意欲を起点に、DXテーマ創出を促すとともに、改革が連鎖する土壌を育成し、年間30件以上の案件創出を目指しています。これらの取り組みを通じて、全社的な変革の再現性を高めていきます。



事業QCD強化への貢献

事業環境が目まぐるしく変化する中、迅速で精度の高い意思決定を支えるデータ基盤と柔軟なシステム構造は、競争力維持の重要な要素です。情報システム部門では、SCM*2、会計、人事などの分散データを統合し、品質・コスト・納期(QCD*3)の最適化に貢献します。2028年度までに主要拠点の重要データを即時参照できる基盤を整備し、500名以上に100種類以上のレポートや接続アプリを提供する計画です。また、情報・コミュニケーション基盤の統一やERP*4、HR*5システムの統合・標準化などのグローバル・プラットフォーム整備により、拠点・組織を越えた協働を促進し、グループ全体での競争力向上と持続的成長を支えます。



*1 ICT: Information and Communication Technology

*2 SCM: Supply Chain Management

*3 QCD: Quality, Cost, Delivery

*4 ERP: Enterprise Resource Planning

*5 HR: Human Resource